

第4回香川県がん診療連携協議会院内がん登録部会がん登録実務者会議事要旨

1. 日 時 平成22年5月28日(金) 13:30~15:15

2. 場 所 労働者健康福祉機構 香川労災病院 第1会議室

3. 配布資料

第4回香川県がん診療連携協議会院内がん登録部会がん登録実務者会議事次第
国際疾病分類腫瘍学(ICD-O-3) ・ ・ 資料1

4. 議 事

(1) がん診療連携拠点病院院内がん登録全国集計(拠点病院別)の概況報告

～「がん診療連携拠点病院 院内がん登録2007年全国集計報告書」

国立がん研究センターがん対策情報センターがん情報・統計部院内がん登録室から送付された香川県内の拠点病院2007年データについて、がん登録実務者の視点で分析を行った。ただ、通年データでない、提出を見合わせた、一部症例の提出に留まった、提出形式が異なるなどで、データが偏在していることは前回の実務者会で明確になっているため、「がん登録の質の均てん化」という視点に立ち、がん登録実務者の登録実務向上を目的に仮説分析を行った。ここでの意見は、香川大学医学部附属病院がまとめ、実務者の合議の後、医師部会に提出することになった。

(2) 生存確認調査(予後情報の収集)の対応について

国は、2011年実施の3年予後追跡調査について「国が効率的なデータ収集を支援する制度を検討する」としている。このことについて香川県にその動向を伺ったが、まだ情報はないとのこと。また、地域がん登録室にある死亡個票についても利用は法に触れると補足された。

(3) 香川県地域がん登録標準DBS集約研修を終えて

地域がん登録室(香川大学医学部附属病院)から、国立がん研究センター地域がん登録・研究班による「集約研修」を5月20日に受講した報告があった。研修を終え、登録票の記載事項について改善すべき事項、形式の誤り等について、依頼と注意喚起があった。

(4) 研修・演習

① 香川大学医学部附属病院 福田北斗がん登録指導者による「国際疾病分類腫瘍学」の講義があり、引き続き「病期分類」について演習2題と解説が行われた。

② 香川労災病院のがん登録システム、ケースファインディングシステムについて電子カルテを操作し、実例をあげた説明がなされた。

(5) その他

昨年のタイムスケジュールから勘案して、2008年症例データの全国集計は7月中旬に拠点病院宛に送付されると想定される。まずそれを各拠点病院が仮説分析することが重要であり、それをもって「がん登録の質の均てん化」を目的に、実務者会を8月~9月に開催することとした。

以上